

学 年

中・高

# 百人一首に親しむ 1

年 組 氏名

ひやくにんいっしゆ

「百人一首」とは、百人の歌人の和歌を、それぞれひとり「一首」選んで百首にまとめ

たものです。特に、鎌倉時代、藤原定家 という人が京都の小倉山のふもとにあった別荘「小

倉山荘」で編集 したされている『小倉 百人一首』を、ふつう百人一首と呼んでいます。

かるたでこの百人一首の歌を覚えている人も多いことでしょうね。

〔問い〕 次の和歌についてあとの問いに答えましょう。

A あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む

B 奥山にもみじふみわけ鳴く鹿の声きくときぞ秋はかなしき

C 淡路島かよふ千鳥の鳴くこゑにいく夜寝ざめぬ須磨の関守

D ほととぎす鳴きつる方をながむればただありあけの月ぞ残れる

E きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに衣かたしきひとりかも寝む

① まず声に出してよんでみましょう。

② それぞれの和歌を例のように五・七・五・七・七で区切りましょう。

例 これやこの／行くも帰るも／わかれては／知るも知らぬも／あふ坂の関

③ これらの和歌の中には生き物がよまれています。それぞれ見つけて ( ) の中に書きましょう。

A ( ) B ( ) C ( )

D ( ) E ( )

④ 五・七・五・七・七のリズムで右にある和歌五首を声に出してよみましょう。

何度も読んでできれば覚えてみましょう。

学 年

中・高

# 百人一首に親しむ 1

年 組 氏名

ひやくにんいっしゆ

「百人一首」とは、百人の歌人の和歌を、それぞれひとり「一首」選んで百首にまとめ

たものです。特に、鎌倉時代、藤原定家 という人が京都の小倉山のふもとにあった別荘「小

倉山荘」で編集 したされている『小倉 百人一首』を、ふつう百人一首と呼んでいます。

かるたでこの百人一首の歌を覚えている人も多いことでしょうね。

A あしびきの／山鳥の尾の／しだり尾の／ながながし夜を／ひとりかも寝む  
かきものひとひとまろ  
 柿本人麻呂

B 奥山に／もみじふみわけ／鳴く鹿の／声きくときぞ／秋はかなしき  
さるまるだゆう  
 猿丸太夫

C 淡路島／かよふ千鳥の／鳴くこゑに／いく夜寝ざめぬ／須磨の関守  
みなものかねまさ  
 源 兼昌

D ほととぎす／鳴きつる 方を／ながむれば／ただありあけの／月ぞ 残れる  
のこ

後徳大寺左大臣  
ごとくだいじのさだいじん

E きりぎりす／鳴くや 霜夜の／さむしろに／衣 かたしき／ひとりかも 寝む  
な しもよ ころも  
 後京極摂政前太政大臣  
ごきょうごくせつせいぜんたいていだいじん

① 声に出してよんでよめましたか。初めはむずかしいかもしれませんが、何度もよんでみると独特の表現にもだんだんと慣れてきます。

② 和歌を五・七・五・七・七のリズムで区切ってよんでみます。よみやすくなりますよ。

③ 和歌の中には生き物や植物などをよんで、伝えたい思い・気持ちを表すことがあります。

右の和歌の中には、次のような生き物がよまれています。見つけることができましたか？

A (山鳥) B (鹿) C (千鳥) D (ほととぎす) E (きりぎりす)

※「きりぎりす」は今の「こおろぎ」。「こほろぎ(こおろぎ)」は今の「きりぎりす」をさしています。他の生き物も辞書などで調べてみましょう。

学 年

中・高

## 百人一首に親しむ2

年 組 氏名

和歌のうちで、五・七・五・七・七の三十一音からなる形式のものを「短歌」といいます。ふつう和歌といえば短歌をさします。三十一音から成り立つので、短歌のことを「三十一文字（みそひともじ）」ともいいます。

〔問い〕 次の和歌についてあとの問いに答えましょう。

A 花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に

B このたびはぬさもとりあへず手向山もみぢの錦神のまにまに

C 名にしおはば逢坂山のさねかづら人に知られでくるよしもがな

D かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知らじなもゆる思ひを

E いにしへの奈良の都の八重ざくらけふ九重にほひぬるかな

⑤ まず声に出してよんでみましょう。

⑥ それぞれの和歌を例のように五・七・五・七・七で区切りましょう。

例 天あまの原／ふりさけ見れば／春日かすがなる／三笠みかさの山に／いでし月かも

⑦ これらの和歌の中には植物がよまれています。それぞれ見つけて ( ) の

中に書きましょう。

A ( ) B ( ) C ( )

D ( ) E ( )

⑧ 五・七・五・七・七のリズムで右にある和歌五首を声に出してよみましょう。

何度もよんでできれば覚えてみましょう。

学 年

中・高

## 百人一首に親しむ2

年 組 氏名

和歌のうちで、五・七・五・七・七の三十一音からなる形式のものを「短歌」といいます。ふつう和歌といえば短歌をさします。三十一音から成り立つので、短歌のことを「三十一文字（みそひともじ）」ともいいます。

藤原実方朝臣  
ふじわらのさねかたあそん

A 花の色は／うつりにけりな／いたづらに／わが身世にふる／ながめせし間に

小野小町  
おののこまち

B このたびは／ぬさもとりあへず／手向山／もみぢの錦／神のまにまに

菅家  
かんけ

C 名にしおはば／逢坂山の／さねかづら／人に知られで／くるよしもがな

三条右大臣  
さんじょううだいじん

D かくとだに／えやはいぶきの／さしも草／さしも知らじな／もゆる思ひを

E いにしへの／奈良の都の／八重ざくら／けふ九重に／にほひぬるかな

伊勢大輔  
いせのたいふ

④ 声に出してよんでよめましたか。初めはむずかしいかもしれませんが、何度もよんでみると独特の表現にもだんだんと慣れてきます。

⑤ 和歌を五・七・五・七・七のリズムで区切ってよんでみます。よみやすくなりますよ。  
※A・B・Cは字余りになっています。  
(A・Cは初めの五音が六音になっています。Bは第二句の七音が八音になっています。)

⑥ 和歌の中には生き物や植物などをよんで、伝えたい思い・気持ちを表すことがあります。右の和歌の中には、次のような植物がよまれています。見つけることができましたか？

A (花) B (もみぢ) C (さねかづら) D (さしも草) E (八重ざくら)

※「花」は桜の花。「さしも草」は「よもぎ」の別の名前。他の植物も辞書などで調べてみましょう。

⑦ 五・七・五・七・七のリズムで何度も声に出してよみましょう。

学 年

中・高

### 百人一首に親しむ3

年 組 氏名

百人一首の中には、多くの地名がよみこまれています。近畿<sup>きんき</sup>地方が多いですが、遠くは福島県や静岡県にある地名なども歌に出てきます。歌によみこまれ親しまれている名所<sup>めいしよ</sup>を、百人一首をよみながら訪ねてみましょう。

〔問い〕 次の和歌についてあとの問いに答えましょう。

A ちはやぶる神代<sup>かみよ</sup>も聞かず竜田川<sup>たつたがわ</sup>からくれなるに水くくるとは

B 住<sup>すみ</sup>の江<sup>え</sup>の岸による波よるさへや夢の通<sup>かよ</sup>ひ路<sup>じ</sup>人目<sup>ひとめ</sup>よくらむ

C 朝<sup>あ</sup>ぼらけありあけの月と見るまでに吉野<sup>よしの</sup>の里<sup>さと</sup>にふれる白雪<sup>しらゆき</sup>

D 契<sup>ちぎ</sup>りきなかたみに袖<sup>そで</sup>をしぼりつつ末<sup>すえ</sup>の松山<sup>まつやま</sup>波越<sup>なご</sup>さじとは

E 音<sup>ね</sup>に聞く高師<sup>たかし</sup>の浜<sup>はま</sup>のあだ波はかけじや袖<sup>そで</sup>のぬれもこそすれ

⑨ まず声に出してよんでみましょう。

⑩ それぞれの和歌を例のように五・七・五・七・七で区切りましょう。

例 春<sup>はる</sup>すぎて／夏来<sup>なつ</sup>にけらし／白妙<sup>しろたえ</sup>の／衣<sup>ころも</sup>ほすてふ／天<sup>あま</sup>の香具山<sup>かぐやま</sup>

⑪ これらの和歌の中には地名がよまれています。それぞれ見つけて ( ) の中に書きましょう。

A ( ) B ( ) C ( )

D ( ) E ( ) ( )

⑫ 五・七・五・七・七のリズムで右にある和歌五首を声に出してよみましょう。

何度もよんでできれば覚えてみましょう。

学 年

中・高

### 百人一首に親しむ3

年 組 氏名

百人一首の中には、多くの地名がよみこまれています。近畿<sup>きんき</sup>地方が多いですが、遠くは福島県や静岡県にある地名なども歌に出てきます。歌によみこまれ親しまれている名所<sup>めいしよ</sup>を、百人一首をよみながら訪ねてみましょう。

- ④ 五・七・五・七・七のリズムで何度も声に出してよみましょう。
- ③ 右の和歌の中には、次のような地名が出てきています。見つけることができましたか？
- A ( 竜田川 ) B ( 住の江 ) C ( 吉野 ) D ( 松山 ) E ( 高師の浜 )
- ※「竜田川」は奈良県の竜田山のふもとを流れる川で紅葉の名所。「吉野」は奈良県にある桜で有名な所。他の地名も地図や辞書などで調べてみるとおもしろいですよ。
- ② 和歌を五・七・五・七・七のリズムで区切ってよんでみます。よみやすくなりますよ。
- ① 声に出してよんでよめましたか。初めはむずかしいかもしれませんが、何度もよんでみると独特<sup>どくとく</sup>の表現にもだんだんと慣れてきます。
- E 音に聞く／高師<sup>たかし</sup>の浜<sup>はま</sup>の／あだ波は／かけじや袖<sup>そで</sup>の／ぬれもこそすれ  
 祐子内親王家紀伊<sup>ゆうしなにしんのうけのきい</sup>
- D 契<sup>ちぎ</sup>りきな／かたみに袖<sup>そで</sup>を／しぼりつつ／末<sup>すえ</sup>の松山<sup>まつやま</sup>／波越<sup>こ</sup>さじとは  
 清原元輔<sup>きよはらのもとすけ</sup>
- C 朝ぼらけ／ありあけの月と／見るまでに／吉野<sup>よしの</sup>の里<sup>さと</sup>に／ふれる白雪<sup>しらゆき</sup>  
 坂上是則<sup>さかのうえのこれのり</sup>
- B 住<sup>すみ</sup>の江<sup>え</sup>の／岸<sup>かみよ</sup>による波<sup>なみ</sup>／よるさへや／夢<sup>かよい</sup>の通<sup>かよ</sup>ひ路<sup>じ</sup>／人目<sup>ひとめ</sup>よくらむ  
 藤原敏行朝臣<sup>ふじわらのとしゆきあそん</sup>
- A ちはやぶる／神代<sup>かみよ</sup>も聞<sup>き</sup>かず／竜田川<sup>たつたがわ</sup>／からくれなゐに／水<sup>みづ</sup>くくるとは  
 在原業平朝臣<sup>ありわらのなりひらあそん</sup>